

# 「天使の梯子」

しゅう史奈

神戸に

私を生み育ててくれたあなたに

## 【天使の梯子 (はしご)】

「ヤコブが、イザクから祝福を受けてイスラエルの地に旅した時、ある土地で石を枕に寝ていると、天に通じる階段が出て、天使が上がったり下がったりしているのを夢にみた。ヤコブは、ここが天の門の地と知り、神に祈ってここにイスラエルの国をつくった。」(旧約聖書、創世記28章)

雲の切れ間から射し込む、幾筋もの神々しい御光は、あたかも天と地を行き交うための階段のように思える。そこでヨーロッパでは、これを天使の梯子、ヤコブの梯子などと呼んでいる。

## 【登場人物】

沢村 亮平

沢村 信子 その妻

谷口 あゆみ 亮平の妹

谷口 洋介 あゆみの夫

菊池 ひかり 亮平の恋人

広田 誠二 亮平の友人

吉沢 照男 信仰者

吉沢 美子 照男の妹

沢村 高次 兄妹の従姉妹 (母の姉の息子)

奈津子

猿渡 遼子

### 【プロローグ】

古びた木造二階建ての一室。下手前には小さな庭があつて、子供用の滑り台が一つ、置き忘れたようにある。部屋全体は昔の洋間と言った感じ。壁紙などは新しく小綺麗な印象。テーブルに椅子が四脚、ソファになぜか上半身が写る位の鏡。棚つきのタンスの上に、仏壇をお洒落風にしたような小さな祭壇もったいぶって置かれている。上手奥に二階に通ずる階段。舞台正面奥は廊下になっていて下手には別の部屋が、上手には玄関があるという設定。舞台上手前には台所に通ずる入り口があつて、暖簾がかけてある。

浮かび上がる一人の女、信子。母のように優しく語りかける。

信子 名もない兵士の話をしましょう。ヨーロッパの古い小さな町のお話です。彼は戦争の起る前は、靴職人をしていました。皮をなめし何日もかかって靴を作っていくのです。小さな子供が、彼の靴を履いて踊るように

駆けていくのを見ると、靴職人はとてもしあわせな気分になるのです。彼は、年老いたお母さんと二人で暮らしておりました。そのうち戦争が激しくなり、彼も兵士になる時がやってきました。元気に戦地に出発し

ていった兵士の靴は、破れてぼろぼろでした。彼は自分の為には一足も靴を作った事がなかったのです。半年が過ぎ、兵士は片腕をなくして帰ってきました。もう上手に皮をなめす事ができません。それでも彼は作業場に座り新しい靴を作り続けます。又半年が過ぎた頃、やっと戦争が終わりました。通りかかった他国の兵士からそれを聞いた彼は、町で一番高い鐘突塔に駆け登りました。片方の腕で力一杯鐘を突いたのです。

「戦争が終わったぞ！終わった、戦争が終わった！」

町の人はこぞって外へ飛び出し、塔を見上げて歓声をあげました。その時です。宙を飛んできた一本の弓矢が彼の身体をまっすぐに貫きました。鐘の音は突然止まりました。……名もない兵士の話です。

風。とぎれそうでとぎれない、小さい鐘の音。そして溶暗。

### 【1場】

一月。まだ寒い冬の朝。二階からダンボールを持った女、あゆみが降りてくる。エプロン姿、いかにも平凡な主婦といった感じ。

洋介の声                      これも？

あゆみ                              私に聞いてもわからへんよ。お兄ちゃんに聞いて      (と、廊下の向こうに消える)

洋介                                      (二階から顔だけだして) お兄さん、お兄さん！

玄関の方から、あゆみの兄・亮平登場。白いシャツにシックなスーツ姿。ジャケットのポケットからは軍手がのぞき、シャ

ツの裾はズボンからはみ出ている。襟はジャケットから飛び出しており、着替えの途中で呼び出されたような感じ。手には水栽培のヒヤシンスを持っている。

亮平 呼んだ？

洋介 (小さな棚をみせ) これは？

亮平 ああ、使わへんから高次においとったって。

洋介 じゃ、ここで

亮平 ん、悪い。まだ大分ある？

洋介 いやあと少しです。

亮平 洋介くん、出るんやろ、もうええよ

洋介 はい (と、顔をひっこめる)

亮平、ヒヤシンスを棚の上に置いてみたり、テーブルの前に置いてみたりして、うろろろしている。  
あゆみ、戻ってくる。

あゆみ 何してるん。私らにばっかり働かせて。

亮平 ああ、ごめん

あゆみ (二階に) まだあるの？

洋介の声 あと、一個持っておいたら終わり

あゆみ じゃ頼むね、お茶煎れとくから

洋介の声

おう

あゆみ

(亮平に) なにしてるんよ?

亮平

・・・これ・・・あっち日陰やろ

あゆみ

じゃ、そことかにおいたら (と、棚をさす)

亮平

ん (置いてみる。なんかしつくりこない、のだ。)

あゆみ

あっこっちの方がええわ (と、下手前のタンスの上をさし) おひさまもようあたるし

亮平

ん (と、移す)

あゆみ

ね

亮平

うん (気に入った、ようだ)

あゆみ

・・・あ、お兄ちゃん、やっぱりその格好のまましてたんやね。もう、クリーニングしたばかりなのに

亮平

時間あんまりないし

あゆみ

着替える位すぐやろ

亮平

・・・

あゆみ

それしかないのにどうするんよ。(ハンカチを出し) ちょっと払って、ほこり。

あゆみ、あきれたように兄を見て、台所へ。亮平は、ハンカチを持ったまま満足したようにヒヤシンスを見ている。向きを調整してみたりする。洋介、大きい箱を持って降りてくる。

亮平

あ、悪い悪い (と、手伝って奥へ)

あゆみ、お茶セットを持って登場。戻ってくる洋介。

あゆみ お兄ちゃんは？

洋介 払ってる

あゆみ ？

洋介 スーツ

あゆみ ああ、もう信じられへんわ、一張羅やのに

洋介 何時頃来るんや、高次くん

あゆみ さあ、お昼までには言うてたけど

洋介 二階からお兄さん追い出すんやから、しっかり勉強して合格してもらわな

あゆみ もう三回目やもん、大丈夫やろ

洋介 わからんで

あゆみ そのためになんかわざわざ部屋貸してあげるんやもん。今度あかんかったら、就職させるっておばちゃん  
洋介 厳しいなあ

あゆみ じゃあないって。まだ下二人控えてるんやから。夜、すきやきでいいかな？

洋介 ．．．俺、今日あっち泊まるわ

あゆみ え？

洋介 焼き肉屋のあと空いとったところあるやろ、あそこが決まりそうなんや。今日先方と飲みに行くから

あゆみ 日曜日やのに

洋介 先方の予定やねん

あゆみ 今日お兄ちゃんもおらへんねんよ

洋介 ごめん

あゆみ そしたら私と高ちゃんだけ

洋介 ま、高次くんには明日の夜にでも挨拶するし。この商売に日曜祝日関係ないのしつとやろ。おちおちしとったら客すぐとられてまうねん

あゆみ 吉沢さんが着たらなんて言うたらええの・・・電話何回もかかってきてるねんよ

洋介 俺がちゃんと言うから大丈夫や

あゆみ お店今日明日にも危ないって言うてたよ。神だのみどころと違うって。あのお金だけはどしても返してほしいって

洋介 金は預かった時点で個人のもんとちゃう。もう、神さまに差上げた金なんやけど

洋介 あの人は来週話し合う事になってるから。猿渡さんにも来て貰って

あゆみ いつ猿渡さんとそんな相談したん

洋介 いつって・・・昨日電話で

あゆみ 昨日

洋介 携帯にかかってきて

あゆみ 猿渡さん、携帯変えたん知ってはるん

洋介 ん、前に言うた

あゆみ 変えたん昨日やん？

洋介 だから変えるって、変えるかもって言うてたから

あゆみ

言うてたんや

洋介

ん、変えるから・・・変えたって知らせたから

あゆみ

知らせたん？

洋介

知らせたんかな、たぶん

亮平、青いネクタイを結びかけにして下手奥より登場。鏡の前に立つ。赤いネクタイを出して比べている。

あゆみ

・・・

洋介

だから、吉沢さんの方は大丈夫や。着替えてくるわ。

洋介、廊下から上手奥へ。

あゆみ

お茶は？

亮平

ああ、先やってまうわ（と、まだ迷っている。）

あゆみ

・・・赤い方がええって。

亮平

そうか？

あゆみ

出版記念会やろ、みんなおしやれしてきはるんやから

亮平

けど、俺が出版するわけとちゃうし

あゆみ

お兄ちゃんが青いのんしたら、なんかお祝いつて感じがせんようになるねん

亮平

顔が暗いんかな

あゆみ

なんとなくやけど

亮平

お祝いやからな（と、解いて、赤いネクタイを結び始める。）

あゆみ

広田さん、迎えにきてくれるの何時

亮平

十一時って言うてたけど

あゆみ

ここ片付けとかな。・・・坂崎さんえらい出世やねえ

亮平

同級生の中で教授なんかあいつ一人や

あゆみ

同じゼミなんですよ

亮平

ん・・・広田がなあ・・・

あゆみ

え？

亮平

いや・・・

あゆみ

広田さんも久しぶりやもんね。

亮平

五年かな

あゆみ

道に迷いはるんとちやう

亮平

ん・・・東京でうまい事やっとうらしい

あゆみ

絵売れてるん

亮平

個展やらやっとうって

あゆみ

へえ

亮平

高次は何時にくるんや

あゆみ

さあ

亮平

留守してて悪いな

あゆみ 当分いるんやから。お兄ちゃん、ごめんね、二階

亮平 なんや、改まって

あゆみ あとからきて、みんなでお兄ちゃんどんどん移動させて

亮平 ええよ。どうせ一人なんやから、寝るところさえあれば

洋介、着替えて登場。

あゆみ トマトジュースは？・・・飲むの？どっち？

洋介 ああ飲む。

あゆみ、片付けものなど持って、奥へ。亮平、座ってお茶を飲む。

亮平 今日も仕事？

洋介 貧乏暇なしです

亮平 よう言うわ

洋介 ちよっと派手じゃないですかねえ

亮平 ？

洋介 ネクタイ。

亮平 そう？

洋介 出版記念会でしょ？お兄さんが出版するみたいな

亮平　　そうかな、やつぱり　（青い方を出して）　これ  
洋介　　ああそれ　（オツケー）

亮平、赤ネクタイをはずして青ネクタイを結び始める。

亮平　　顔が暗いかなって思ったんやけど  
洋介　　いやいや

あゆみ　（出てきて）　はい、最後の一本  
洋介　　お、又買っといってくれよ　（飲む）

あゆみ　吉沢さんの事やけど・・・例えばあのお金じゃなくてもウチから貸してあげるとかできひんかな  
ラーメンの方順調なんやろ

洋介　　困ってる人みんなに貸してたらどないなんねん。ウチかって明日は我が身やねんで。  
・・・

洋介　　だいたい今時ワイシャツの首にマジックで名前かくようなクリーニング屋、流行らへんやろ。  
ね、お兄さん

亮平　　ん・・・（心あたりがあるのか、そっと首に手を持っていく）  
洋介　　仕上がりに一週間もかかるし

あゆみ　チェーン店みたいにはいかへんて、昔ながらのやり方やねんから  
洋介　　だからあかんようになったんやろ、ね、お兄さん

亮平　　（結びながら）　ん？　ん

あゆみ

けどそしたら吉沢さんでないしたらえんよ。

洋介

祈り続けるしかない。あとは日々の精進（と、祭壇に向かって、丁寧な独特の祈り）カズ、行っ

てくるで。（あゆみに）ほしたら。

あゆみ

．．．猿渡さんよろしく

洋介

え？．．．

あゆみ

もし会ったら。吉沢さんの事相談してみて

洋介

．．．ああ、分かった。じゃ、お兄さん

亮平

行ってらっしゃい

洋介鞆を持って出ていく。あゆみ、つと立って、先刻のヒヤシンスを見ている。

あゆみ

もうすぐ咲くね

亮平

．．．吉沢さんって、角のクリーニングの

あゆみ

もう、あかんって

亮平

仕事丁寧やったのになあ

あゆみ

ない人からお金ばかりとって

亮平

信者のくせしてそんな事言うてええんか

あゆみ

．．．あ（ネクタイ）

亮平

赤はやっぱりな

あゆみ

お兄ちゃんが恥かくだけやから私はええけど

亮平 恥って

あゆみ 暗い顔に見えるって言うてるのに

亮平 . . . (と、座ってお茶を飲む)

あゆみ 祈ったからってどうなるんやろ、カズが帰ってくるわけでもないし

亮平 教会に入ったお陰で、元気になった言うってたのに

あゆみ 私あの人みたいのにめりこんでる訳とちゃうねん。

亮平 . . . ここ出であっちのマンションに二人で暮らしたらええねんぞ、洋介くん、いつまでも女房

あゆみ の実家におるんが気詰まりなんとちゃうか

あゆみ お兄ちゃん一人でほっとかれへん。

亮平 俺大丈夫やで

あゆみ . . . あの人あっちのマンションで誰かといえると思う

亮平 . . .

あゆみ お兄ちゃんも会った事のある人

亮平 教会の人か

あゆみ (頷く)

亮平 見当もつかんな

あゆみ みえすいてるねん。外泊ばかりして

亮平 猿渡さんかって家庭があるんやろが

あゆみ 見当ついてるやんか

亮平 いや

あゆみ

猿渡さんも子供亡くしてるんよ

亮平

そうか・・・

あゆみ

あっお兄ちゃん、ひかりさんとそろそろ？ だから私らに早く出て行ってほしいとか

亮平

そんなんとちゃう

あゆみ

いいやん、照れんかって

亮平

ちやうって

あゆみ

どっちでもええけど

亮平

あんなあ、みかけたって言うねん・・・広田が昨日電話で・・・

あゆみ

誰を

亮平

だからその・・・信子を

あゆみ

・・・うそ

亮平

和歌山の方で個展やった時にな、そつくりの人がおって・・・

あゆみ

そんないい加減な

亮平

間違いないっていうんや

あゆみ

・・・もう十年もたってるんよ。広田さん、お姉さんの事そんなによく知つとう訳とちやうで

しよ

亮平

知ってるよ。大学の時俺らずっと一緒のゼミやってんから

あゆみ

だってそんなん・・・今までかって嘘の情報ばかりやったやん

亮平

間違いないって

あゆみ

生きてたらなんで今まで連絡してきいひんの？

亮平 . . .

あゆみ それで

亮平 ん？

あゆみ どうするんよ

亮平 だから今日パーティのあとでゆっくり話しよって

あゆみ 広田さんが？ . . . 探しにいくん、和歌山まで

亮平 くわしい事聞いてからや

あゆみ ひかりさんはどうするん

亮平 だからまだわからん

あゆみ でもほんまにお姉さんやったらどないするんよ

亮平 ほんまに信子やったら . . .

玄関で物音。あゆみ、玄関へ出ていく。

亮平、ヒヤシンスをテーブルに移動しみつめている。

あゆみの声 ああ、お久しぶりです

広田の声どうも、こんにちは

あゆみの声 どうぞ、あがってください

亮平 ほんまに、信子やったら . . .

広田の「いやあ」とか「じゃ、ちよっとだけ」の声。

あゆみ お兄ちゃん、きはったよ。・・・何泣いてるんよ

亮平 花粉症や

あゆみ ……

広田登場。画家というより、おしゃれな営業マンのような雰囲気。

広田 よ

亮平 おう、悪いな、車、わざわざ

広田 謹賀新年、今年もよろしく

亮平 もう半月過ぎとう言うねん

広田 まあ、一応挨拶な

あゆみ コーヒー？

広田 ああ、すぐいくから。あゆみちゃん、元気？

あゆみ はい、なんとか

広田 お母さんのお葬式これなくてどうも

あゆみ とんでもない。

広田 (片付けるあゆみの手元をみて) へえ、トマトジュース

あゆみ

あ、飲みます？

広田

うん、飲みたいな、それ

あゆみ

じゃ（と、奥へ）

広田

元気そうだな、あゆみちゃん

亮平

そうか

広田

お前、どっか具合でも悪いの？なんか顔色悪いけど

亮平

え．．．そう？（ネクタイを気にしている）

広田

懐かしいな、この家（庭をみて）おっ滑り台、まだ置いてあるな

亮平

．．．昨日の話、カミさんの、

広田

ああ

亮平

（聞きたい事がたくさんあるのだが、うまく言えず）．．．あとで、ゆっくりな

広田

ん

亮平

頼むわ

あゆみ

（出てきて）はい、どうぞ

亮平

最後の一本ちやうかつたんか（そろそろネクタイをはずしている）

あゆみ

相手によって変わるの。（広田に）しばらくはごっちに？

広田

そう。アトリエもあるし、半年くらいはいよいよと思ってるんだ

あゆみ

奥さんも

広田

まあね。おいてくる訳にもいかないし。ちやうどタイミングよくみんなに会えるからよかつたよ

あゆみ

坂崎さんも広田さんも、ご活躍ですね

広田 俺はそうでもないよ。あつても春に大阪で個展やるから、よかつたらみにきて下さい。

あゆみ ああ是非

広田 (トマトジュースを飲んで) うまい！ (亮平に) お前飲んだ？

亮平 いや

広田 飲んだ方がいいぞ。顔色悪いんだから

亮平 大きな御世話じゃ

あゆみ お兄ちゃんはトマトあかんから。

広田 なんで

あゆみ 悪い思い出があるんです。昔二人乗りのブランコから落ちて

亮平 落ちたんはお前やる

あゆみ お兄ちゃんが下手くそやから・・・で、私の膝がぱっくり割れて血がドバツて出て・・・しかも

よりによつてその日の晩ご飯にトマトが出たんです。

広田 はあゝ

亮平 それ以来赤いのはどうもな

広田 それ以来

亮平 想像するやろ、どうしても。ドバツて出てたんを

広田 あ、そういえばお前、イチゴも嫌いだったもんな

あゆみ タバスコもケチャップもジャムもだめ。

亮平 いやもうドバツと、見事に出るとこみたもんやから

あゆみ 私よりか先にお兄ちゃんが泣き出してんから、あの時。わんわん涙振り飛ばして泣くねんもん。

亮平

みんながお兄ちゃんの方ばかりかまって、ケガしてる私の立場なかってんから  
そうやったかな

あゆみ

そうよ、ドバッてなってるのに。まるで私がいじめてるみたいやってんから。

亮平

ごめん

あゆみ

家に帰ってトマトみて又泣いて

広田

トマトみて

あゆみ

そう、泣き虫は昔っから

広田

なるほどな

亮平

感心すんな

広田

ご主人は元気？

あゆみ

はい。今はラーメンのチェーン店で走り回ってるん

広田

豚骨？

あゆみ

そう

広田

いいねえ

亮平

なにもラーメン屋やってるわけとちやうで こいつのところが店舗を貸してるだけや

広田

わかってるよ、でも豚骨いいじゃん

亮平

なにがいいじゃんや

あゆみ

すっかり東京の人やね

広田

いやなんか切り替えられなくてさ。けど向こうでは結構関西人ってバレルよ。ネクタイとか菊池

さんとか言っただけで

あゆみ

ネクタイ？

広田

違うんだよね、発音が。こっち無声音ないっしょ。ネクタイ (関西風)、ネクタイ、菊池さん

(関西風)、菊池さん

あゆみ

菊池さん……

広田

ノー、ノー、菊池さん、ネクタイ、ネクタイ

あゆみ

あの……本当にお姉さんだったんでしょか。和歌山で広田さん見たって……

広田

……うん、たぶん

あゆみ

そんな事ってあるんでしょうか。十年も行方不明で……急に……

広田

あるんじゃないかな、まだ確かな情報じゃないけど

あゆみ

……

亮平

一時間はかかるやろ

広田

ああ、そしたら。ごちそうさま

あゆみ

いえ……あれ、お兄ちゃん、ネクタイ、あつ (東京風で) ネクタイは

亮平

ん？ああ、ネクタイは向こうで (とかなんとか)

広田

あゆみちゃん、またね

あゆみ

坂崎さんよろしく

三人、玄関の方へ

広田 (以下声)

坂崎の奴、頭あぶないらしいぞ

あゆみ

うそ

広田

大学の時から兆候はあったけど

あゆみ

けどえらくなりはったから貫禄出ていいかかも

広田

先生やからな

あゆみ

何よ、お兄ちゃん

亮平

いや、ちょっと、すぐ

亮平戻ってきて、置きっぱなしになっていたヒヤシンスを柵に戻す。

亮平

・・・

あゆみ

(声)

お兄ちゃん、何してんの！

亮平、出ていく。

この間に庭の方に迷ったように入り込んできている若い男、高次。大きいリュックに、肩がけ鞆。中の様子を窺う。その後ろから若い女 (奈津子)。

高次

ごめんください。・・・こんにちは。(地図らしき紙を見て) ここやもんな、ま、ええか。・・・

失礼します。あ、どうぞ、ここに用事なんですよ？

奈津子

・・・(踵を返して去ろうと)

高次

ちよ、ちよっと待ってよ・・・何急に

奈津子

.....

高次

用事あるんやろ

奈津子

留守みたいやし

高次

入って待ってたらええやん。ここ俺の親戚んち、のはずやし。

と、靴をぬいで入ってくる。あたりを見回して、

高次

おかしいな (奈津子に) あ、どうぞ

奈津子、渋々入ってくる。

高次

へえ。庭まであるなんて思わへんかったな。あ、こっちが玄関やったんか。(奈津子に) あっち

は回って見た？ あ、自分もはじめてなん？

奈津子

(頷く)

高次

近所の人？ あゆみちゃんの知り合い？

奈津子

.....

高次

ん？

奈津子、出し抜けに高次に抱きつく。

高次

え、ちよ、ちよっと……。

小さい鐘の音。暗転。

【2場】

数日後、雨の午後。

クリーニング屋の吉沢照男が来ている。配達途中で立ち寄ったような格好。彼を説得する洋介とあゆみ。

洋介　とにかく、あのお金はもう教会に差し上げたものなんやから。それは分かりますね。

吉沢　はあ、けど、まだここにあるんですよね

洋介　そやから、来月の初めの会合の時に、僕が代表して中央支部に預ける事になってるんです。この前も説明したやないですか

吉沢　ここにあるんやったら、どうにかならんでしょうか。もともとは私の出したお金の訳やしだから！ さっきからの話聞いてくれてなかったんですか？

あゆみ　まあ、お茶でも飲んで、吉沢さん

洋介　そうや。（あゆみに）熱いの、いれなおしたげて

吉沢　今すぐ金が必要なんです。おやじの代から守ってきた店なんです。

洋介の携帯が鳴る。

洋介

失礼。・・・はい、もしもし、ああ、なんや・・・おう、だからそこをガツーンと言うたれ。

吉沢

・・・二三日中やったらなんとかなるって言われてるんです。

あゆみ

はあ、

吉沢

今日明日をしのいだってどうにもならへん事は分かってるんです。

あゆみ

そんな

吉沢

けど、それでもあと一月でもいい、頑張ったらなんとかなるんちゃうかって・・・値段が高いん

は分かっているんです。けど一枚一枚大切に洗って、アイロンして、包装して、どうしても手間がかかるんです。

チェーン店に、お客さん全部とられてしても・・・

あゆみ

どこも大変やから

吉沢

クリーニング以外やったことないんです

あゆみ

・・・

吉沢

ラーメン屋にするって、地主が言うてるんです。

あゆみ

え？

吉沢

なんでクリーニングのあとにラーメンなんでしょう。三軒先にも斜め向かいにもあるんです。ラーメン屋

ばっかりそんなに作ってどないするんでしょう。

あゆみ

はあ（洋介の電話を気にしている）・・・

洋介

「これからはラーメンの時代です。ラーメンが時代を変えるんです」って。うん、うん。実際売り上げ

も

そこそこいつてる訳やし、なんも遠慮する事ないよ。いや正直そこれたら助かるねん。うん、頼むわ、え？　．．．ああ、だから．．．

二人

．．．．．

洋介

おう、そしたら。あとから行くから。　(切る)　すいません。　(二人の視線に)　え？　．．．

二人

．．．

洋介

だからね、吉沢さん

吉沢

教会は脱会します。だからあの金を

洋介

そんな訳にはいかんて言うてるでしょ！

あゆみ

そんな言い方せんでも　(二階から覗いている奈津子に気付いて)　何？

奈津子

冷蔵庫こっちって聞いたから

あゆみ

．．．台所、そっちやけど

奈津子、黙って奥へ。不審気にみつめるあゆみ。

吉沢

死んだ嫁とお袋の分もと思っでここまで頑張ってきた店なんです。教祖かなんか知らんけど、あの漆原先生がお宅の息子さんを生き返らせてくれるんですか

洋介

．．．

吉沢

祈ったって何にも解決せえへん。私にとって教会はそれを教えてくれるところやったんです。

洋介

吉沢さん、ちょっと落ち着いて

吉沢

落ち着いてる暇なんかないんです。　(と、突然立ち上がり祭壇へにじりよる)　とにかくあの金が必要なん

です。(と、引き出しを探りはじめる。)見逃してください。見逃して下さい。

洋介 ちよっと！なににするんですか (吉沢を取り押さえる)

蹲って頭を抱える吉沢。あゆみは洋介と彼を交互にみつめている。  
庭から入って来ている美子、吉沢の妹である。

あゆみ よっちゃん？！

美子 こっちからの方が近かったから

あゆみ ええよ。入り

美子 (入らず) お兄ちゃん

吉沢 なんや、家におれって言うたやろ

美子 だって

吉沢 もうきてるんか

美子 (頷く) 私一人でどないしたらええんかわからへんもん

吉沢 おばさんは

美子 何回電話してもつながらへん

吉沢 そうか

美子 (あゆみらを気にしつつ) どうなったん？

吉沢 . . .

美子 あかんの？ . . .あかんの？ どないするん

美子の視線に洋介とあゆみ、思わず目を反らす。

美子 とにかく帰ってきてよ、一人でおって、拉致されたら困るやん

吉沢 拉致ってお前

美子 . . .

吉沢 すぐ行くから先かえっとけ。とにかく家におってくれ、すぐ帰るから

美子、視線を走らせ、しぶしぶながら出ていく。それを見送る吉沢。

あゆみ (洋介に) ねえ、ちよつとだけでも

洋介 . . . 吉沢さん、俺らは仲間やから。相談にはいつでも乗るし、漆原先生は長年祈り続けてきた人を見捨てたりせえへんから。

吉沢 . . . ラーメンは時代を変えますか？

洋介 は

吉沢 ラーメンがどんな風に変えるんやろか

あゆみ 吉沢さん

吉沢 やっぱお腹のあったまるんがええんかな。 . . . マジックでね、この襟のところに名前書いたりするのはやめようって妹とも話しとったんやけど、おやじの代からの習慣で、そら今時ねえ . . . けど時間と、金額だけね、どうしても変えようがないし。 . . . (行きかけて振り返り) まさかあんなん拉致せえへんとは思

う

んですけど・・・ほしたら失礼します

吉沢、玄関から去る。二階の方からかすかに男女の声が聞こえている。そろそろと片付けるあゆみ。洋介は大きなコップで水を飲み、出かける準備をする。

あゆみ

猿渡さんがいたらもうまいこと言えた？

洋介

しゃあないやろ、風邪なんやから

あゆみ

ねえ、まさか、ウチが吉沢さんとこの店

洋介

ちゃうちゃう、よその業者や

あゆみ

ラーメンって言うてたよ

洋介

そやから競争激しいねん。

あゆみ

・・・お金返してあげられへんの、脱会しても

洋介

もうこの話はやめや

あゆみ

けど

洋介

あの人に協力したら、俺らの願いかってかなわへんようになる (例えば書類のチェックなど)

あゆみ

どんな願い？

洋介

・・・カズのこと忘れんと二人で仲良くしあわせに・・・生きて行くことや

あゆみ

あほくさ

洋介

・・・マンション行くのいやがったの自分やんか、ここにおりたいって

あゆみ マンションの話なんか誰がした？

洋介 漆原先生の事最初に聞いてきたのあゆみやったやろ。・・・自分からはじめといて文句ばっかり言うなよ

あゆみ すぐ行くの、仕事

洋介 ああ。傘出してくれ、折り畳み。

あゆみ そっちにあるでしょ

洋介 見当たらん

あゆみ どっかに忘れて来たんちゃう

洋介 なかったらええわ

あゆみ これ、はい

洋介 なんや

あゆみ 風邪薬。私からも猿渡さんによろしく伝えて。今年の風邪は長引くらしいから気をつけてって

洋介 うん、え？・・・

高次、登場。 いかにも受験生といった感じ。

高次 あの、

あゆみ なに？

高次 上、雨漏りしてんねんけど

あゆみ うそ

高次 なんか (受けるもの) ありますか？

あゆみ ああ（と、さつき洋介が飲んでいた大きめのグラスを）そしたらこれ

高次 どうも

あゆみ 一個でいいの？

高次 いまんとこ（いこうと）

あゆみ みてみよか

高次 たいしたことないから

あゆみ こないだの子でしょ、あの子。なんできてるん？

高次 遊びに

あゆみ 遊びにって

高次 近くで働いてるらしくて

あゆみ 裏から入れたん？

高次 . . . .

あゆみ なんでそんな勝手な事するん

高次 すいません

あゆみ 高ちゃん、あんたここに勉強しに来てるんやろ

高次 . . . .

あゆみ 私、おばちゃんから頼まれてるんよ

高次 受験に受かればええんやろ。

あゆみ . . . .

高次 ほしたらこれ借ります

高次、去る。

あゆみ

．．雨漏りなんか前はしてへんかったのに

洋介

古いからな（と、引き出しなど開けている）

あゆみ

なに、傘？

洋介

ん

あゆみ

なあ、こないだ言うたおかしな子、さっき顔出したあの子やねん。家間違えましたって、逃げるみたいに

洋介

出ていったんよ。いつのまに友達になったんやろあの二人。高ちゃんより、大分年上にみえるけど

あゆみ

おばんくさいなあ、お前

あゆみ

．．．

洋介

遊びたい年頃やねん、ほっとけ、二十歳やろ

あゆみ

けど預かってるんやから。それにあの女の子どっかで見た事あるような気がするねん

洋介

子供にまで嫉妬するんか

あゆみ

．．．

洋介

家間違えた言うたんやろ？．．高次に一目惚れしてウチまでついてきたんちゃうんか

あゆみ

まさか

洋介

わからんで、あれでなかなか色男なんやから（と、何気なく薬を持って出ようと．．．が、妻の視線を

感

じて、いったん持った風邪薬を又テーブルに置き）お前も風邪ひきちょうか。なんか熱あるみたいな顔し

てるで (おでこに触れようと)

あゆみ やめて

洋介、ややあつて祭壇へ。祭壇には、決まり事らしい酒や飾りの他に何故かグローブが飾ってある。

洋介 ほしたらカズ、・・・おい、グローブ埃溜まつてるぞ。酒は変えたんか

あゆみ ・・・カズはお酒なんか飲まへん。野球なんかまだ出来へん

洋介 それでも母親か

あゆみ クマのラッキートりんごジュースが好きやってん。動物図鑑と、お父さんの壊れたカメラと、小豆島でと

った貝殻が宝物やってん。なんにも知らんくせに偉そうに言わんとつて！

洋介 全部消えて無くなったんやからしようがないやろ！

あゆみ ・・・

洋介 (グローブを手に取り) 俺にかつて夢があったんや

洋介、出ていく。一人残ったあゆみ。

間。

呼び鈴の音。

あゆみ はい (出ていく)

「ああ、久しぶり」「こんにちは」「どうぞ、入ってください」と、女性二人が明るく会話する声が聞こえて、あゆみの後ろから出てきたのは、菊川ひかり。

あゆみ お客さん帰ったばかりで散らかってるけど（と、あわてて散らばった菓を拾う）

ひかり ごめんなさい、急に

あゆみ 学校の方は？

ひかり 創立記念日

あゆみ ああ。お兄ちゃん、今日は現場って言うってたけど

ひかり いいの、あゆみさんに

あゆみ 私に？

ひかり 電話、しようと思ったんだけど……

あゆみ （何かを察して）どうぞ座って……紅茶でも入れるね（奥へ）

ひかり ごめんなさい

あゆみ タオル使う？

ひかり 大丈夫（ハンカチを出して拭く）

あゆみ 予報ではもうすぐやむはずやねんけど

ひかり どうぞおかまいなく

あゆみ出てくる。

あゆみ  
ひかり  
あゆみ  
ひかり

ただのティーバック。寒かったでしょ

全然（くしゃみ）あ、

風邪ひいたんと違う？

そうかな

流行ってるみたいやから。（紅茶を）どうぞ

ありがとう

いつ以来？

去年の夏

ああ、須磨海岸

そう

お兄ちゃんがスイカ割りして卒倒した

そう、あれ以来。

きつとあのざくっと割れたのがあかんかったんやな、赤いし

え？

ううん．．．学校の方うまくいってる？

自分より大きい高校生に東京もんっていじめられる事はなくなりました

よかった。まだおじさんとこに？

そう、娘がわり．．．

．．．何か？

．．．（唐突に）写真．．．（バッグから）その須磨の．．．持ってきた

あゆみ

え？あの去年の？

ひかり

撮ったでしょ。私が持って返ったまま焼き増ししそびれてて

あゆみ

ああ。え？ わざわざ？

ひかり

今さらだけど……。ほら（と、並べる）

あゆみ

（内心戸惑いながらも）ひゃあ、懐かしい。そうそう、ひかりさんビキニ、かわいい

ひかり

あゆみさんもビキニ着たらよかったのに

あゆみ

それは世間が許しません、あっ今納得した、一瞬した

ひかり

してないよお

間。

あゆみ

すごい風やってんねえ

ひかり

そう、

あゆみ

バーベキュー砂だらけなって洗いながら食べたんや、じやりじやりいいながら……。うわっ何こ

ひかり

の洋介の頭。いやあ 私、今より太ってるう……。ほら、これご夫婦ツーショット

あゆみ

……。と、見て）。すいか割り、撮らへんかったつけ

ひかり

亮平さん、写真苦手って

あゆみ

そっか、しくじった。おもしろかったのに、ね（……）

ひかり

……

あゆみ

？

ひかり

一枚もないの、亮平さんの写真。この日だけじゃなくて、嵐山も、ファミリーランドも、写ってるの私だけ。ぜんぶ確かめてみたの、そしたら……。気づいてなかったなんて変よね

あゆみ

……

ひかり

気づいてた、ホントは。でも思いこもうとしてたの。写真の私は一人ぼっちじゃない。こっち側にちゃんとあの人がある。じっと私を見てくれてるんだって……

あゆみ

ひかりさん

ひかり

でも違ってたみたい

あゆみ

……

ひかり

理由何なのかな……。知らない？……

あゆみ

……

ひかり

……。振られちゃった。亮平さんね、ごめんって頭下げずと泣くの。自分が泣くなんてひどいでしょん。

うん。

ひかり

泣かないでって、なんで私が慰めなくちゃなんないの？！

すいません

ひかり

どっかがだめなのかな、私。

あゆみ

そんな事ないよ。お兄ちゃんなんか……。お兄ちゃんなんか着る物一つ選べへんねんから。測量士かなんか知らんけど、現場行って帰ってきた時　　なんかいつも、こゝんな、ヘルメットの形ついたまんま帰

ってきて、こんな髪型のままむすつとしてご飯食べて、誰があんなこゝんな頭の人と……

ひかり

私はよかったの……

あゆみ　　こゝんなんでも？

ひかり　　(泣きながら頷く)

あゆみ　　．．．だってこゝんなん．．．ひっこいね私

ひかり　　．．．

突然、電話の音。

あゆみ　　もしもし．．．

ひかり　　？

あゆみ　　無言電話．．．もう一杯飲む？

ひかり　　うん

あゆみ、行こうとして、よろける。

ひかり　　あゆみさん？

あゆみ　　．．．大丈夫 (立とうと)

ひかり　　いいよ、もう。座ってて。

あゆみ　　ごめん (座る) ．．．

二人　　．．．

あゆみ　　．．．雨、やんだね

ひかり あ、天使の梯子

あゆみ え

ひかり 珍しい．．．（と、庭を指差す）ほら光の筋ができてるでしょ。雲の間からサーッて。

あゆみ あれ天使の梯子って言うんや

ひかり 天使がね、空からいつたりきたりしてるんだって

あゆみ どことどこを？

ひかり 天と．．地？

あゆみ へえ．．．

ひかり ．．やっぱりなくなった奥さんの事忘れられないのかな

あゆみ ．．．

ひかり とっても仲良かったんでしょ

あゆみ 誰が言うたん？そんなこと

ひかり ご主人

あゆみ （一人言で）あの（バカ）．．

ひかり 滑り台光ってるね。あれ？ どうして滑り台？

あゆみ ．．四歳のお祝いに母がね、潰れたマンションから出てきたんあれだけ。

ひかり ．．．

あゆみ お気に入りだね、夢中になりすぎておしっこ漏らした事もあった。つーってお尻の跡がつい

ひかり て．．．

ひかり ？．．．

あゆみ  
ひかり  
あゆみ  
ひかり  
あゆみ  
ひかり  
あゆみ  
ひかり  
あゆみ  
ひかり  
二人  
ひかり  
あゆみ  
ひかり

聞いてない？お兄ちゃんから？息子の事

(頷く)・・・ごめんなさい、私・・・

なんかいいことありそう

え

あれ (天使の梯子)。昔フオルクスワーゲン百台数えるといいことあったでしょ、あれみたいに

何それ

知らへんの？ワーゲン百台

四つ葉のクローバーとかそういうの？

古典的イ。

じゃうーんと・・・茶柱が立つ

年寄りくさー

あ、じゃ霊柩車が通ると親指を隠しましょう

それ違う意味やと思う

うん確かに

とにかく良い事あるって事にしよ、これ見たら

うん・・・

・・・

あゆみさん、私あきらめない

・・・

じゃ、晴れてるうちに帰ります。光の中歩きたいの。

(照れて) カッコつけちゃった

あゆみ

．．．

ひかり

おじゃまりました。(去ろうと)

あゆみ

ひかりさん、あのね．．．

ひかり

？

あゆみ

ううん、風邪気をつけて

ひかり

あゆみさんこそ (去る)

ひかりを送ってあゆみも玄関へ。

黒い傘を持った女性猿渡遼子が庭から中を覗いている。

電話の音。

あゆみ

(戻ってきて電話を取り、) もしもし．．．え？なんの事ですか？ わかりませんが．．．(ふと、

猿

渡に気付く)．．．留守です。会社やと思いますけど。そしたらお名前言って下さい。え？

電話は突然切れたようだ。あゆみ、猿渡の方へ。

遼子

ごめんなさい、玄関が分からなくて

あゆみ

いえ、主人もう行きましたけど

遼子 話し合い終わっちゃった？

あゆみ はあ

遼子 無事に？

あゆみ 猿渡さん風邪は

遼子 大丈夫

あゆみ けど顔赤いわ、入りはったら

遼子 いいえ、無事に終わったんだっただけいいんです。おじやましました (行こうと)

あゆみ あ、傘

遼子 ？

あゆみ (別のを持ってきて) これと変えて貰えませんか？

遼子 . . .

あゆみ それ、父のなんです

遼子 (傘をそっと置き) もう止んでるから

二人 . . .

又鳴り始める電話。

遼子 そしたらまた会合の時に (去る)

あゆみ、電話を取る。

あゆみ　　もしもし・・・なんで家にかけてくるんですか？携帯って、そんなん言えませんか。警察に言いますよ！

あ　の　（切れた）

あゆみ、置いてある黒い折り畳み傘を手に取る。息をついて、もう一度庭の滑り台に目をやる。

あゆみ　　天使・・・カズには見えてたんかな

ふと、声が聞こえたような気がして振り返るが、部屋には彼女しかいない。

きらきらと庭が輝き、部屋の中が暗くみえる。外と内が逆転したようだ。溶暗。

### 【3場】

冷たい雨が降っている。夕暮れ。

奥から湯飲みを持って出てくる亮平。作業着姿。入ってきてヘルメットをとる。髪型は全く気にせず・・・、ヒヤシンスをテーブルに置いてみつめている。

庭に立つ信子。

信子　　名もない兵士の話覚えてる？　せっかく戦争終わったのに、あほなやつちゃって亮平は言うたね。ようは

油断大敵、慎重に行動せよや、　って。けどな、それが出来ひん事もあると思うねん。亮平は私の事、おとな

しい、ええ子やなあっていつつも言うやろ。勘違いや。信号が赤って分かっててびゅって走って渡ってみたい時あるやん。静かな演奏会の席でわおーって叫びたなる事あるやん。私ほんまはそんな好きやねん。亮平と結婚して、そんなところが嫌われへんかほんまは心配。あんなあ、兵士の話やけど、私は、忘れんといてな、言うことやと思うねん。戦争が終わっても、どんな楽しい時代がきても、そういう人がいたこと、命かけて喜びを知らせた事知ってほしい。いっぱい死んだ人やら毀れた街があった事忘れんとなってな。命今でも、その街では、鐘がな、その兵士が討たれたところでびたって止むんや。亮平、うまいこと言われへんけど、私が赤で走り出しそうになったら、青になるまで押さえとってな。変なところで大声出しそうになったら・・・キスして止めて。それでももし、二人の間に何かがあったら・・・しゃあないけど、でも、ここに私がおったこと、いつまでも忘れんとってね。

亮平、ヒヤシンスをみつめながらお茶を飲み終える。立ち上がり帽子を取ると電気を消して出ていく。

間。

玄関の音。激しい男女の息づかいがして、明かりがつくと同じ居間。忘れ物のように息吹きかけたヒヤシンスがテーブルの上にポツンとある。

高次　　はあ、参った。びしょびしょ

奈津子　　はい（と、ハンカチかタオルを）

高次　　二階いく？　着替えるやろ、Tシャツ位あるから

奈津子

大丈夫。私傘さしてたもん

高次

掴まってただけやもんな。

奈津子

煙草は

高次

こっち（と、だして）これのおかげで心臓バクバク

奈津子

あれぐらいで

高次

あの坂でチャリこいだら誰でもこうなるわ

奈津子

どこ行っちゃって坂やよ、この町は。阿蘇山へ修学旅行行って平気なんは神戸の子供だけやって

高次

なんで

奈津子

坂で足鍛えてるから

高次

へえ

奈津子

こんなすごい坂毎日登校するんよ。息きらして、必死でペダル踏んで。ちよつとでも足止めたら逆戻り、

後ろの子も一緒に落ちてまう

高次

な、ケツ冷たない？

奈津子

帰りは楽なもん。ツーツて車輪が勝手に滑ってくれるんやもん。彼氏と二人乗り

高次

いつの話

奈津子

バイクよりスリルある。細い腰にしがみついて、風で髪の毛がふわって。永遠に終わらんとってって思う

のにすぐ終点。上りは十分でも下りは三十秒。

高次

二階行こうや。

奈津子

あの坂が、ぱっくり口開けるなんて誰が想像する？

高次

んん・・・



てる。あの時もし・・・

高次 (皿を持って出てきて) どこ？

奈津子 昔この近くに知り合いの家があつてん。古い木造の家で、一階がお漬け物屋さん、二階には老夫婦が住んでたん。十年前のあの日一瞬で潰れたけど

高次 へえ

奈津子 公園の中の新しい部屋に行くと、おばあちゃん、外の水道の前で大根持ったまんまぼんやり止まってんねん。どないしたんって声かけたら、どうしても思い出せへんって。漬け物ってどうやって作るんやったか、洗ってから先一つも思い出せへんって。腕まくりしたまま、ずっと立ってるねん。四十年もそれだけやってきたのになあって・・・

高次 それで

奈津子 それだけ。だから懐かしくてこの辺うろろしちやうの

高次 ふうん

奈津子 そのお漬け物屋さんのあと、何が出来てると思う

高次 さあ

奈津子 豚骨ラーメン

高次 その方が流行りそうやなあ

奈津子 そう、大繁盛・・・

奥から物音がする。

高次

やばい。ちょ早く

二人、二階へ去る。

見計らったように入ってきたのは、吉沢照男。前場より更にやつれ、首には包帯を巻いている。鬼気迫る感じ。祭壇あたりの引き出しを手当たり次第あけ金を捜している。

車の音。続いて玄関が開けられた音。咄嗟に隠れる吉沢。

あゆみを抱きかかえるようにして入ってくる広田、その後ろから猿渡遼子。

あゆみ

そこに

広田、あゆみを座らせる。

あゆみ

すいません

広田

布団とかひく？

あゆみ

ううん。あれ

広田

？

あゆみ

濡れてる

広田

タオルか何か

あゆみ

あ、ええから。広田さん、車大丈夫ですか？

広田

ああ、あそこ平気みたい。それよりびっくりした。あんなところに蹲ってるから

あゆみ

急にお腹が痛くなって

遼子

助かりました。救急車呼ぼうかって考えてた所だったんです

電話の音

広田

取る？

あゆみ

あかん！

びっくりして手を引っ込める広田。三人、言葉なく電話の音を聞く。やがてその音もぱたりと途絶える。

三人

...

あゆみ

猿渡さん、私やっぱりできません

遼子

...

あゆみ

だって、どう説明したらええの。びっくりして、ここに押し掛けてくる人かっているわ、きつと

遼子

とりあえず来週の総会を延期するって、それだけでいいの

あゆみ

嘘でしょそんな

遼子

...いいわ、私が全部連絡します。手分けした方がって言われて話したただけだから

あゆみ

洋介が？

遼子

...

あゆみ

洋介が私にも手伝わせろって言うたんですか

遼子

．．．

あゆみ

なんで自分で言わへんの

遼子

ご主人は会社の方が大変で．．．とにかく信者の方には私が連絡しますから

あゆみ

連絡して、それから？

遼子

東京本部へ行って相談して来ます

遼子、黙って広田に会釈して去ろうと、

あゆみ

そのままずっと東京におつてください

遼子

．．．

あゆみ

実家があるんでしょ。りっぱなお家やご両親もいはるんでしょ．．．なんでわざわざ神戸なんかにお嫁

に来たんですか

遼子

．．．自分でもそう思うわ。こんな町大嫌い

遼子、去る。所在なくいる広田。

あゆみ

．．．すいません

広田

いや

あゆみ

広田さんこの辺でお仕事やったん

広田

ん、まあ

あゆみ 電話．．．いやがらせなんです。なんか主人の会社が色々恨まれてるみたいで、買い取ったとか、売り払ったとかどうのこうの、私にはようわからへんねんけど

吉沢が、刃物を持って出てくる。

二人 !

吉沢 金返せ

あゆみ 吉沢さん？．．．

吉沢 返せ、俺の金返せ！

あゆみ やめて

広田 あぶない！

吉沢 俺かってやる時にはやるんや。どれだけバカにしたら気がすむねん

吉沢、あゆみを押し倒し刃物を突きつける。

広田 やめなさい

吉沢 近づくな！ ほんまに殺すぞ。金はどこや。はよ言え

あゆみ 吉沢さん、こんな事やめて。何してるか分かってるん？ 正気に戻って。警察沙汰にでもなったら、よっちゃんはどうなるんよ

吉沢 うるさい

あゆみ

お金は返すから。お金は私が責任を持って届けるから、ほんまやから。もし、約束破ったらそれで私の事がすむまで刺したらええわ。明日まで待ってくれませんか

吉沢

あかん、今すぐや。はよ言え。刺すぞ、俺は本気なんや

じりじりと刃物があゆみの首筋に近づく。固まっている広田。

あゆみ、一瞬の隙をついて立ち上がると、吉沢を鮮やかに投げ飛ばして刃物を取り上げる。力つきで蹲る吉沢。

あゆみ

吉沢さん

吉沢

．．．首吊り言うんは思ったより苦しいもんやね。もうちよつともうちよつとって頑張るんやけどなかなかね。かあちゃんやら和子やらがおって、そばで頑張れ、頑張れ、言うてくれたらうまいことここ、ククッて締められたかもしれへんけど。ま、人が首つってる横で頑張れいう家族もねえ、変なもんやし。けど、同じようなもんでしょ。人が燃えていきよる横でね、何にもできんと、頑張れ、頑張れ言うて．．．  
よっちゃんがおるでしょ。吉沢さん、一人じゃないって事忘れたらあかんよ

あゆみ

吉沢、放心したように出て行く。

広田

大丈夫？

あゆみ

はい

広田

警察連絡する？

あゆみ

いいえ、知り合いなんです。ごめんなさい、迷惑かけて

広田 いや、何の役にも立たなくて。強いなあゆみちゃん

あゆみ 元柔道部

広田 あ (納得)

あゆみ (引き出しを探る) なんやろ

広田 なんや盗まれた?

あゆみ お金、ここに入れてた筈なんやけど。(思いついて) 高ちゃん! いるの? 高ちゃん? . . . もう、

どうなってるんやろ . . .

広田 やっぱ警察

あゆみ 待って。ちょっと考えさせてください。 . . .

広田、所在なくうろろする。落ちている物を片付けてみたりする。

広田 (一人言のように) あ、でも片付けたりしたらあかんか、現場はそのままにとか言うし

あゆみ 広田さんもしかしてウチに用事?

広田 いや

あゆみ この頃お兄ちゃん、遅いねんよ。

広田 なんや言ってた? この間のその . . .

あゆみ 出版記念会? 別に . . . ただ、信じちゃったみたい、広田さんの話。

広田 . . .

あゆみ . . .  
なんでそんな事言うたんですか。見間違いに決まってるのに

広田

でも

あゆみ

そらお姉さんはみつからへんかった。けど、あの日お姉さんが泊まってたお友達の家全部潰れたんです。家の人かって一人残らず……。だからお姉さんの生きてる確立は一千万分の一くらいなんよ。っていうかないの、そんな可能性。

広田

それは

あゆみ

聞いて下さい。やっとお兄ちゃん、諦めはじめてたんです。すごくいい人が出来て、うまいこといったんです。それなのに、冗談半分にそんな事言われたら困るんです！ 迷惑なんです

広田

冗談半分じゃなくて俺は

亮平、帰ってきている。夕方の作業着のまま、ヘルメットではない帽子を被っている。

亮平

なんや、お前

広田

おう・・・あゆみちゃんが・・・

あゆみ

気分悪くて道にしゃがんでたら助けてくれはってん

広田

たまたま、通りかかって・・・

亮平

そうか

広田

いや、たまたまはうそで、ほんまはなんか気になって

亮平

・・・ええって、気にすんなって言うたやんか

広田

気にするなっただって、するよ気に

亮平

なんやそれ、さかさま言葉か

広田 気にするな、するよ気に……(考える)

亮平 俺嬉しかったんや

広田 ……

亮平 嬉しくて嬉しくて……だからお前に感謝しよう

広田 皮肉か

亮平 ちゃうよ。お前といとつてくれてよかった……ほんまによかってん

あゆみ どういうこと

広田 ちゃんと謝りたかった。こないだはお前が怖くて中途半端だったから

亮平 怖いなんか言われたんはじめてや

広田 ごめんな、亮平

亮平 ありがとう、広田

広田、無言で去る。

二人 ……

あゆみ お兄ちゃん十年も待ったんやんか。小さい希望みたいなん、ずっと裏切られてきたやろ。ひかりさんね、

亮平 お兄ちゃんの事ほんとに好きみたいやで。だから……

和歌山におるらしいんや

あゆみ だからね

亮平 ……あの日、広田とおったって。広田と二人で……。泊まるって嘘ついてた家が潰れてしもたから帰

りそびれたんや。

あゆみ

・・・？

亮平

大阪のホテルやって。あつちはなあ、こつちほどひどなかつたし

あゆみ

そんな

亮平

生きてるねん、信子は

あゆみ

そんなん、なによそれ！　それが嬉しいん？　それで、お礼言うたん？　あほちやう。何考えとんよ！

お兄ちゃんつてバカ？

亮平

大きい声出さんとつてくれよ。・・・

あゆみ

いい加減にしてよ！　どうなってるんよ！　そんなん、私らみんなはいずりまわって地獄みたいなとこで

苦しんでる時に何考えてるんよ

亮平

ええから

あゆみ

何が？　何がいいの？　そんな人、生きてたつて意味ないやん。友達の家で潰れてた方がまだましやんか！

亮平、思わず妹の腕をつかむ。

あゆみ

殴るん？

亮平

いやや、やり返されるん怖い

あゆみ

・・・

亮平

おらんようになる事の方が地獄やねん

あゆみ

．．．ごめん

亮平

俺ほんまに嬉しいねん

あゆみ

．．．ずっと待ってたんやね。私、ほんとには知ってたのに．．．ごめん

亮平

信号がな．．．青になるまで押さえとく約束破ったん俺の方なんや（と、ヒヤシンスを定位置に）待ち

き

れんと飛び出しよったんやな

あゆみ

何の話？

亮平

．．．（黙って花を見つめている）

あゆみ

それお姉さん好きやったもんね

亮平

毎年上手に咲かせとった。

あゆみ

今年は、お兄ちゃんも成功しそうやん。．．．いやや泣かんといて。いつも先に泣くねんもん。だから

亮平

私泣かれへんようになるんやんか

あゆみ

なんかあったんか

亮平

あったよもう、いろいろいっぱい！

あゆみ

なに

亮平

教会の漆原先生いなくなった。今まで収めたお金やら何やら全部もったまま、行方不明。

あゆみ

そうか

亮平

それから、クリーニングの吉沢さんが刃物もってお金取り返しにきた。殺されるところやった

あゆみ

え？

亮平

首吊り自殺まででしたらしい

亮平 それから

あゆみ 引き出しのお金なくなった。吉沢さんどころか誰にも返されへん

亮平 それから

あゆみ 二階の高次は反抗的で、全然可愛くない。私の事敵みたいな目でみるねん。それやのにちよつと注意したり心配しただけで人はそんな私をおばんくさいと言う。見た目より若いのに

亮平 洋介くんは？

あゆみ マンション。会社が暴力団と揉めてしばらく帰られへんって、猿渡さんが教えてくれた

亮平 それから

あゆみ それから・・・

亮平 あゆみ

あゆみ なんの音？ とんとんとんとんとんとんとん・・・

亮平 ・・・雨漏り？

あゆみ まさか、ここ一階やのに

亮平 けど

耳を澄ます二人の耳に、いつしかはつきりとその音が聞こえてくる。

あゆみ どっこも穴なんか開いてないのに

亮平 ん・・・

あゆみ 私、お兄ちゃんみたいな弱虫とちゃうもん

亮平

ああ

あゆみ

泣いてるんとちやう、雨に濡れてるだけやねん

亮平

わかつとうって

目を見開いて天井に雨漏りの箇所を探すあゆみ。そんな妹をみつめる亮平。溶暗。

【4】

鼻歌がきこえてくる。

テーブルの上にヒヤシンスの鉢をいくつか並べて世話している信子。この家の主婦だった頃を彷彿とさせる。

信子

紫におひさまの花であじさいやろ。ヒヤシンスはね、風に信じる子って書くねん。信じる子で信子、お父さんが付けたん。プロポーズした時お母さんが黄色いヒヤシンスを返してくれたんやって……。きれいに撮ってよ。花もちゃんと入れて。(ポーズをとる)・・・写真は大好き。写ってるのが私だけでも、そこに

は

私を見てる亮平と、亮平を見てる私がいる。何年かして何十年か経って、そつとアルバムをめくった時、私にははつきり見える、そこにいる亮平が、みつめあってる二人の姿が。それで気付くんやわ。いてくれるだけよかったんやなって。黄色いヒヤシンスの花言葉はね、「あなたとなら幸せになれる」やって。・・・

亮平がシャッターを切ったに違いない、信子の印象的な笑顔を残して・・・暗転。

数日後、そこまできた春を感じさせるような日差し。午後。祭壇のなくなっている部屋。妙にだらしのない格好の高次と話しているのは吉沢の妹美子。

高次 おらへんていうたらおらへんねん

美子、庭から家をのぞきこむ。

高次 疑うんやったら、上がって家中みてみるよ。

美子、上がろうとする。

高次 ほんまに上がるなよ

美子 ……隠れてるんや

高次 隠れてへんよ なんで隠れるねん

美子 ほしたらええやん

美子、上がろうと…止める高次。

高次 ちよ、やめろよ。人の家に

美子 上がれ言うたん自分やん。分かった！二階に隠れてるんや

高次　ちよちよ、やめろって（焦って止める）あかんって

美子　（大げさに）痛！乱暴やめて

高次　乱暴なんかしてへんやん

美子　今ココつかんだやん

高次　なにが、ココこうやって止めただけやろ

美子　あ、また触った、私をどうする気？

高次　は？・・・

美子　か弱い女やと思って

高次　？ いやだから・・・何の用事やねん、ほんまに俺しかおらへんねんてば

美子　こここの家の人に呼ばれたって言うてるでしょ

高次　だからみんな留守やって言うてるでしょ

美子　あんたおかま？

高次　誰が？何で？

美子　ほんまに親戚なん？

高次　正真正銘の従兄弟

美子　受験生ねえ！

高次　なんや

美子　別に

高次　言いたい事あったら言えよ

美子　ええん？

高次 はよ言え

美子 絶対落ちそう

高次 言うなよそんな事

美子 言えってゆうたやんか

高次 とにかく夫婦で出かけてるねん、伝言あったら伝えとくから

美子 お金を一刻も早く払ってください。約束が違うって。治療費も払って貰うつもりやうって言うといして下さい。

今いる親戚の連絡先書いとくわ。(手帳を出して書き始める。)

二階から奈津子登場。下着に男物のシャツというような格好。

奈津子 あ、ごめん

高次 (焦りつつ) あ、ああ

奈津子 なかなか戻ってきいひんから (と、階段をもどろうと)

美子 (そういう事か、という感じで) あ、どうぞもう帰りますから。(高次に) やっぱり隠してたやん

高次 . . .

美子 これ (と、メモを) 病院にいない時はこっちに連絡してって。もう元の家は追い出されるからって  
高次 わかりました。

美子 (二階をみて) 奈津子さん?

高次 ?

美子 お漬け物屋の奈津子さん? . . . そんなわけないか。

高次 あの人の事知ってるん？

美子 似てたから (二階と高次を見比べて妙に老成した笑いを漏らす)

高次 なに

美子 ええな、この頃の若い人は

高次 自分いくつや

美子 この十日間で五十才位年取った気がする。・・・受験、ダメもとで頑張りな

美子、去る。

高次 ダメもとって・・・何やあれ。(メモをポケットに突っ込む。そして嬉々として二階に、)

帰ったで。もうええから出てこいよ。出てこいよお！

下手奥から亮平が出てきている。

亮平 なんや

高次 え？なんで？・・・いや、出てくるな！出てきたらあかん！

亮平 なんやねん、人の事呼んどいて出てくるなって

高次 ちゃうねん。ちゃうねん。いや、だから二階出るねん、ねずみが。だから (二階に聞こえるように)

出

てくるな」って。

亮平　こんなところから叫んだってあかんやろ。ねずみなんか出えへんかったけどなあ（と、二階を見ようと）

高次　（更に焦って）ええんねんええねん、俺ねずみ大好きやから。うん・・・亮ちゃんいつからおったん？

亮平　今日休みなんや

高次　え、ずっと？・・・

亮平　いろいろ調べる事があって（手には電話帳や、名簿のような物を持っている）

高次　あ、奥さんの・・・

亮平　和歌山いうても広いからなあ。で、なんの用事？

高次　（ふと、思いつき二階を気にしつつ）なあ亮ちゃん、この近くに漬け物屋ってあった？

亮平　漬け物屋？・・・ああ、そういやあったな向かいの筋に

高次　向かいの？

亮平　ん、昔な。地震で家ごと潰れてしもたけど

高次　・・・

亮平　漬け物屋がどうしたん？

高次　いや、おいしかったって聞いたから。たまには俺もうまい漬け物食べたいなと思って

亮平　若いのに変わった奴やな。そんなんはあゆみに言うてくれよ

高次　うん、忙しいとごめん

亮平、自室へ。高次、二階を見上げる。

玄関の開く音がして、あゆみと洋介が帰ってくる。洋介はおでこに絆創膏を貼っている。

洋介 　　ただいま。

高次 　　おかえりなさい

あゆみは黙っている。

洋介 　　どう？勉強進んでる？

高次 　　はあまあ、あ、これ（と、メモを出し）女の子が来て、連絡先って。金を払えとか治療費がどうか

洋介 　　（メモをみて）なんやこつちにきたんか（あゆみに）美子ちゃんウチに来たって

あゆみ 　　病院に一時で言うたんちやうの

洋介 　　言うたよ。向こうが勘違いしたんやろ

あゆみ 　　治療費もって・・・どうするん？

洋介 　　（高次に）払えって？

高次 　　そんなような

洋介 　　自分が勝手に自殺したのに

あゆみ 　　あの時すぐお金返してたら自殺なんかせんでもよかったんちやうの

洋介 　　だからそればっかり蒸し返すなよ

高次 　　そしたら俺上いくから

あゆみ 　　ねえ、この引き出しに入ってたお金ほんとに心当たりない？

洋介 　　やめとけよ

高次 さあ（と、一階へ）

洋介 疑ってるみたいやろ

あゆみ 疑ってるもん

洋介 聞き方があるやろそれにしたって

あゆみ . . .

洋介 何怒っとうねん

あゆみ . . .

洋介 . . . 確かに嘘や。けどああいうしかないやろ。向こう死にそびれたばっかりの人なんやで

あゆみ （吉沢さんが） 退院してきはつたらなんていうの

洋介 その時ははっきり言うよ。

あゆみ 教祖がお金持ち逃げしてどこにいるか分かりません。預かってたお金は盗まれてしまいました。

洋介 どうにかして貰おうなんか思っってへんから自殺したんやろ

あゆみ けどヨッちゃんが

洋介 なんでウチにきたんやろ、病院って言うたんやけどな

あゆみ あの子になんて言うつもりやったん

洋介 だから盗まれたって

あゆみ 納得するわけないやん

洋介 だから、ちゃんと説明して . . .

亮平ダンボールを持って登場。

亮平 帰ったんか

あゆみ たいま

洋介 (箱をみて) 何ですか？

亮平 いや・・・で、どうやった、吉沢さん

あゆみ 一週間くらいで退院できるって

亮平 手首？

洋介 お風呂で沈んでる所を妹さんがみつけたらしいんです

亮平 首吊りよりは楽やと思っただんなかなあ

あゆみ 楽な筈ないやん。気が付いたらお風呂中血の海になってたって

洋介 ここ一本切っただけでかなり出るらしいからなあ

あゆみ 動脈やもん。ドバーって噴水みたいに血が飛び出すんやろ

洋介 お前そら香港映画の見過ぎやろ

あゆみ どないしたんお兄ちゃん？

亮平 (顔蒼白)・・・ん？ あああ・・・

洋介 水水 (と、台所へ)

あゆみ ちよっとしっかりしてよ

洋介、水を持ってくる。

洋介 お兄さん、これ

亮平 あ、すまん（ど、飲む）

あゆみ もう

亮平 （フーッ）・・・助かりはってよかったな

あゆみ ん

洋介 でもお金の事とか難しくくて。はっきり言って関係ないんですけど、たまたま預かったりしてたから、僕が追い込んだみたいになって

あゆみ そんな言い方やめてよ。死んでくれた方がよかったみたいに関係ないやんか

亮平 難しいなあ・・・

洋介 今、ウチの会社もちょっと大変なんで

あゆみ 強引な事してたからやろ

亮平 その（絆創膏をさして）けがはどないや

洋介 たいした事ないですよ

亮平 犯人は

洋介 事務所に殴り込んできたんは向こうやから、訴える事は出来るんですけど後の事を考えると・・・

亮平 暴力団関係か

洋介 たまたまそれ絡みの所を買い取る事になって、いや大分前から揉めてたんですけど・・・

亮平 難しいなあ・・・（ど、ダンボールの中を探ったりしている）

洋介 なんですか、それ

亮平 いやこれ・・・（あゆみに）なあ、お前知らんかこの中に入ってた写真。

あゆみ

写真？そんな箱みたことないけど

亮平

ここに、全部なあ入れとったんやけど、袋だけで全部なくなつとうねん。(出てくるのは写真屋の袋ばかり)

あゆみ

あっちこっちに移動してる間にどっかいつてもたんちやう

亮平

・・・そんなはずないねんけど

洋介

このアルバムは？

亮平

それが何も貼ってへんねん

洋介

(中を見て) はあ・・・

亮平

あちこちな、探して貰うのに写真がいるやろ

あゆみ

お姉さんの

亮平

(探しながら頷く。箱の中からは旅行のパンフレットやら、プレゼントの包装紙やら、手紙類など思い

出

の品々が出てくる。)

あゆみ

なんで今まで気が付かへんかったん

亮平

この箱開けるんがなんやなちよっと・・・

洋介

なるほど

亮平

そうなんや

洋介

確かにね

亮平

わかるやろ

うんうんと、頷き合う二人。

あゆみ            なに二人で納得してるんよ

洋介                辛かったって事やろ、わかるやんか

あゆみ、上着とバックを持って上手奥へ。

亮平                機嫌わるそうやな

洋介                そうなんですよ (と、台所へ)

亮平、一枚の写真をみつけてじっとみている。

洋介トマトジュースをグラスに入れて出てくる。

洋介                (飲みながら) あ、それお兄さん？若いですねえ、やつぱり

亮平                うん (と、トマトに気付き) ……キミちよつとそつちで飲んでくれる？ 今はちよつと……さっきの  
今やし

洋介                あ、ああ (と、離れる) いつ頃ですか？それ

亮平                ん、結婚する前やから、十年になるかなあ。あいつ下手やな、ぶれぶれや

洋介                信子さんが

亮平                ん……これ一枚だけかな、

洋介 お兄さん写真嫌いですもんね

あゆみ、大きなアルバムを抱えてくる。

あゆみ あったん？

亮平 いいや

あゆみ これ、お兄ちゃんの結婚式の。私たちの写真一枚もなくなっちゃったって言うたら、洋介も写ってるし持つとけつてくれたやん。

洋介 ああ

あゆみ これ使ったら

亮平 (見ながら) けど、ウエディングドレスじゃなあ。かなり古いし……

あゆみ そつか……(と、見て) きれいやねえ、お姉さん

亮平 ん……

洋介 なつかしいな。ちょうど今頃ちやうかつた？

あゆみ 二月？

亮平 二十六日

洋介 この日に、僕はじめてお父さんにご挨拶したんですよ

亮平 そうなん？

洋介 お母さんやお兄さんには先に会ってたんやけど、お父さんだけまだで

あゆみ 私が計画してん。彼氏紹介したいって言うてもなかなか会ってくれへんから

亮平 娘と息子はちゃうんやろな、やっぱり

あゆみ お兄ちゃんの結婚式の日やったら、お父さんも逃げる訳にいかへんと思つて

洋介 けど、いきなり隣の席でしよ、もうどうしよか思いましたよ

あゆみ 飲め飲め言われて。(亮平に) お父さん、嫌いやったでしよ、飲めへん人

亮平 ああ

あゆみ 大きい声で「酒を飲めへん男は男とちゃう」とか言うて。まわりに人もいるのに恥ずかしかつたわ

亮平 けど洋介くん飲めへんやん

洋介 そうなんですすよ。もうまっ赤になつちやつて。僕はつきり言つてお兄さんの結婚式の事あんまり憶えてな

あゆみ いですもん

あゆみ ほんまや、なにこの赤い顔 (と、写真をさす)。お父さんがつぐでしよ、それをよそ見してる隙に私がせ

っせせと (飲むマネ)。ほんでそれ見てお母さんがクスクス笑つて

亮平 おやじも赤い顔してるなあ

あゆみ 飲み過ぎやねん。それで「うちのかわいい娘を」とか反対するんかと思たら、洋介が「あゆみさんと結

婚

を前提に」って言うた途端に「こんな粗大ゴミさつさと持つてって下さい。」って。粗大ゴミやで粗大ゴ

ミ

亮平 確かにお前はかさばるもんなあ

あゆみ 何感心してるんよ

洋介 それでお父さんスピーチの時、・・・

あゆみ なに

洋介 「本日はウチの粗大ゴミのために・・・」って

あゆみと洋介吹き出す。

あゆみ もうお兄ちゃんと私とごちゃごちゃになってもて

亮平 俺までゴミ扱いや

あゆみ ちり紙交換ちやうねんから

洋介 あゆみの話でいっぱいになってんな、たぶん

あゆみ お姉さん変な家族って思ったやろねえ、せっかくの結婚式に

亮平 信子はおやじの事大好きやったで

あゆみ (写真をみて) そうそうこれ。お母さんが、ほらお父さんの腕押さえとう

洋介 ほんま、なんで？

あゆみ ほっといたら指揮者になるねん。こうやって

亮平 おやじなあ、酔っ払うと歌いながら指揮しよるんや。腕がつかんと、口も閉じる。腕がつくと、口があいて、歌をな、歌い出す。そやから写真やから口押さえるわけにいかんから、おふくろは必死でおやじの腕を押さえとる

あゆみ 口と手がセット

洋介 はあ、そういえば (指揮) ようしてはりましたね

あゆみ ……元氣やったんやね、二人とも

亮平 ……

あゆみ

残っててよかったこの写真

亮平

ん……

洋介

僕ね、お父さんが「あゆみは粗大ゴミや粗大ゴミや」って言うたびに「俺の宝物や宝物や」って言われ

て  
る気がして……。

間。

あゆみ

お茶入れる？

亮平

おう

あゆみ、台所へ。

洋介

……式のあとでね、お父さんと二人で飲んだんですよ。外に出て、川に向かって二人で並んで、ションベンしました。お前もせえっていわれて。それがなかなか出なくて……けどなんか、出た時はスカッとしてこれでもうお父さんとは大丈夫って。なんやわけわからんけど、そう思たんです

亮平

そうか……

あゆみ

(奥から明るい声で) コーヒーにする？

亮平

なんでもええよ (出したものを一つ一つ大事そうにしまっている)

洋介

(それを見ながら) 物はなんも残ってなくても、忘れてへんもんですね

亮平

ん……

洋介の携帯が鳴る。少し躊躇して取る。

洋介

もしもし、えっ？そっちにまで？ うん……うん、いやすぐいくよ。ええて。そんな事言ってる場合じゃないでしょ。とにかく絶対外に出ないで。うん、そしたら。(出かける準備を始める)

盆を持って出てくるあゆみ。

あゆみ

……でかけるん

洋介

ああ

あゆみ

会社？ ……マンション？

洋介

何するかわからん連中やから

あゆみ

……いかんというて。

洋介

……

あゆみ

今まで止めた事ないでしょ。今日はいかんというて

洋介

すぐ帰ってくる

あゆみ

そんなに心配？

洋介

……今度ゆっくり説明するよ

あゆみ

もう帰ってこんでええから

亮平

あゆみ

あゆみ

何が宝物や……

洋介

……ごめん。すいません、お兄さん。カズ（と、習慣でいいかけるが祭壇はない）……

洋介、出ていく。玄関の閉まる音。  
間。

亮平

ストローブつけよか

あゆみ

（アルバムをとって）これもその箱に入れといて

亮平

……ああ（と、入れる）

あゆみ

（亮平がテーブルに置いた写真に気付く）これお兄ちゃん？

亮平

うん

あゆみ

かっこいいやん

亮平

うん

あゆみ

なにイ自分の顔じーっとみて。ほんまは写真好きなんやん

亮平

この写真のこっち側にな、カメラを構えてる信子がおるんや……

あゆみ

……レンズからお兄ちゃんをみてるお姉さんが見えるって事？

亮平

もっと笑えとか、ちゃんとこっち向いてって、注文多いねん。自分ばかりはしゃいで……結局ぶれぶ

れや

あゆみ

（見て）こんな嬉しそうな顔この頃せえへんもんねえ

亮平

．．．．．

あゆみ

．．．やっぱり部屋においとく。(と、アルバムを取り)そばに置いときたいねん (奥へ)

見送って亮平がお茶を一口飲んだ時、二階からコートと靴を持った奈津子が降りてくる。一瞬、みつめあう二人。奈津子は靴を履いて庭から出ていく。

一間あって、脱兎(だつと)の如く階段を駆け下りてくる高次。やはり一瞬亮平を見るが、黙ってそのまま玄関と庭を見比べ、結局奈津子とは反対の方から出ていく。あっけにとられてみている亮平。

亮平

．．．(庭を指して)こっちって言うた方がよかったんかな．．．(手遅れである)

あゆみの部屋から物音。悲鳴のような声。なんとなく気になる亮平。

亮平

あゆみ? どうかしたんか、あゆみ?

何かが崩れるような音。そして．．．

あゆみの声

お兄ちゃん! ．．．お兄ちゃん．．．

亮平、あゆみの部屋へ。

誰もいなくなった居間。日差しは随分陰っている。テーブルの上には一枚の写真。

風の音に混じって、どこからともなくあの鐘の音が聞こえている。暗転。

【5場】

二、三日後。夕方。冬に逆戻りしたような冷たい風が吹いている。

階段に腰掛けて煙草を吸っている奈津子。鼻歌。それは何処かで聞いた事のあるような節まわし・・・。

「♪白い花なら別れの涙 赤い花なら嬉しい心 青い花なら悲しい心 咲いたらあげましょ あの人の」

コンビニの袋を持って帰ってくる亮平。

奈津子 (当たり前のように) おかえりなさい

亮平 (習慣的に) ただいま (と、言ったもの) ? . . .

奈津子 お邪魔してます

亮平 どうも

ヒヤシンスの具合をみる亮平。奈津子はぼんやりハミングしている。

亮平 高次は

奈津子 寝ちゃいました。昨夜は徹夜したって

亮平 受験生やからな

奈津子 入院されたんですね、妹さん。亮ちゃんだけやから、泊まっていけよって

亮平

高次が

奈津子

(頷く)

亮平

そしたら今日は勉強どころとちやうな

奈津子

ほんま (と、又ハミング)

亮平

その歌……

奈津子

「花言葉の歌」。知ってます？ ダッサいよね、昔の歌って感じ。おばあちゃんがいつつも歌ってて

亮平

……漬け物屋のお孫さん？ 向かいの筋の？

奈津子

……

亮平

ちやうか？

奈津子

そう……

亮平

いや高次が漬け物がどうか言うと思ったから。けどえらい変わってるからわからへんかった。えーと、

な……

奈津子

奈津子

亮平

ああそうや、奈津子ちゃん。

奈津子

……

亮平

無事やったんや

奈津子

おばあちゃんと大阪の親戚んちに

亮平

そうか、よかった。おばあさん元気にしてはる？

奈津子

……先月脳溢血で

亮平

そうですか……なんで高次と

奈津子 久しぶりにここの前まで来たらなんか動かれへんようになって・・・じっと立ってたら声かけられて

亮平 あいつ勇氣あるなあ

奈津子 静かですねえ

亮平 (庭の方をみて) ちょうどあそこやったもんねえ

奈津子 滑り台はいつからあるんですか

亮平 妹らが持ってきたんや

奈津子 へえ

亮平 . . . .

奈津子 道のこっち側は昔のまんまやのに、あつちは全部知らん家。こっちの人は何事もなかったように暮らして

るのに

亮平 何事もなかった事ないよ

奈津子 . . . .

亮平、上着と帽子を持って自室へ。

奈津子 . . . 天井から夜明けの空が見えた。ぜんぶなくなつて、気が付いたら顔の横に太い柱が倒れてた。崩

れた壁の隙間からあの人の手が見えてる。微かに、微かに、私に合図を送ってる。あの時私は・・・

亮平、鞆を取りに戻ってきて奈津子の声をじっと聞いている。

奈津子 (気付いて) . . . .

亮平 (袋から缶のお茶を出して) 飲む？弁当高次の分しか買ってきてへんけど . . . .

奈津子 あの日彼氏が泊まりにきてたんです。この頃になってその時の夢ばかり見る。小さい隙間から手だけが

見えてるん。大きい声で叫んだら、合図を送ってくれたんです。顔がみたくて必死で柱を持ち上げるんやけどびくともせえへん。そのうち周りがどンドン火に囲まれて行って . . . いやな夢

亮平 一瞬の事やったからなあ

奈津子 たまたまウチになんかきてたから

亮平 誰のせいでもないよ

奈津子 . . . 彼氏は私と違って頭が良くて、大学をめざしてて . . . 私ね、勉強してる彼を静かに黙って見て

るのが好きやったんです

亮平 それで高次とも

奈津子 どうかな . . . 随分変わったんですね、この辺。おしやれなケーキ屋さんも出来て

亮平 ああ

奈津子 高校の時あんなところでデートしたかった。私らの時はマクドやらドムドムばかり。

亮平 今の高校生かってそんなもんやろ

奈津子 そうお? . . .

亮平 そうやろ

奈津子 . . . 奥さんを捜してるって

亮平 ああ

奈津子 ケンカしたことある?

亮平 時々な

奈津子 私ら一回もないねんよ

亮平 へえ

奈津子 すごくモテたんよ、私。ほんま。いろんな人に誘われたん。中にはモデルみたいに格好いい男の子もいてんよ。けどな、あの人がいっつも私の事じいっと見てるのに気付いたん。それでね、教室におっても、廊下におっても、あの人私を見てくれると思うとすごく安心で、落ち着くねん。あの人どこにいるか分からんといらいらして、心配で落ち着かへん。

亮平 好きになったんや

奈津子 保育園の時からずっと一緒やってん。だから兄妹みたいな感じ。

亮平 初恋の人や

奈津子 おとなしくていっつも本ばかり読んでるねん

亮平 メガネかけとった？

奈津子 うん

亮平 こんな厚いの

奈津子 そうそう

亮平 体育が苦手で

奈津子 なんでわかるん

亮平 なんとなく

奈津子 でも物知りでいろんな事を知ってたん。私の知らない話をいっぱい知って聞かせてくれるねん。ずっと

あとになって気付いたんよ。あの人私をみつめてるだけとちやう。私もあの人を見てるんや。あの人

が一生懸命私を見ているように私も・・・

亮平　　どないしたん？

奈津子　　・・・

亮平　　大丈夫？

奈津子　　私・・・

音もなく入ってきている、ひかり。奈津子は気が抜けたように彼女の前を横切って出ていく。だがひかりの目には奈津子が見えていないらしく・・・。

亮平　　（気付いて）あ、え？

ひかり　　開いてたから。声もかけたんだけど・・・

亮平　　・・・

ひかり　　電話したら若い男の子が出て、あゆみさんが入院したって

亮平　　疲労とかなんとか色々検査してるみたいやけど

ひかり　　そう

亮平　　（バカの 一つ憶えのように缶の茶を差しだし）飲む？

ひかり　　栄養とか偏ってるかなって思っ

彼女は大きなスーパーの袋を持っている。

亮平 ああ

ひかり 座ります

亮平 どうぞ

ひかり 一回来ました

亮平 はあ、聞きました

ひかり ……あのままなんていやです。

亮平 ……

ひかり 理由言って。私、何聞いても大丈夫だから。

亮平 ……

ひかり 彼氏いない歴二十八年って嘘です。千葉の実家にいたとき、大失恋して、急に声が出なくなっちゃって。

音楽教師なのに歌も歌えないなんてだめでしょ？それでしたころこっちまで逃げてきちゃった。これが私の隠してた秘密。

亮平 ……すいません

ひかり 私、ダメですか？

亮平 ひかりさんがダメなんとちゃうんです。

ひかり でも私じゃダメなんですね

亮平 ……

洋介、帰宅するが居間を覗いて、自室へ。

ひかり

．．．いつも寂しそうな顔してるの知ってました。私の事見てないって知ってたけど、気付かない振りしてました。ずっと何年でも、一生でも知らんふりするつもりだった。

亮平

ひかりさんは、もっと幸せになれる人やから

ひかり

勝手な事言わないでよ！ 言わないで．．．

ひかり、右手をあげて亮平の頬を打とうとする。亮平黙って目を閉じて待つ。ひかり、一間あって手を下ろす。

ひかり

奥さん、生きてらしたんですね。ほんとには全部従兄弟さんから聞きました。ずっと前にあなたを捨てた人でしょ。私負けてますか？

亮平

．．．友達と張り合って、やっと結婚したのに、大切にしたのは最初のうちだけであんまりいい旦那とちやうかったんです。あの頃、前の会社で突然クビ切られて、酒ばっかり飲むようになって．．．手をあげたり、随分ひどい事も言うたんです。

ひかり

亮平さんが？ うそ？

亮平

．．．親にも妹にも言うたことない．．．僕の秘密です。

ひかり

．．．

亮平

何年でも、何十年でも待つつもりです。

ひかり

(突然歌う) ハー♪ ハハハハハ

亮平

．．．

ひかり

私大丈夫だから。声がでなくなったりしないから。

ひかり、持ってきた袋からどんどん物を出して並べていく、トマトジュースたくさん、ケチャップ、いちご、いちごジャム、タバスコ、にんじん、赤ピーマン……茫然とみつめる亮平。

ひかり  
千葉で私にひどいことした元の恋人にいつかひどい仕返ししてやりたいって思ってたの。亮平さんと  
会ってそんな事忘れてたけど。(並べ終えて)罰。泣いたってダメよ。(と、亮平をみつめる)  
亮平  
.....

二人がにらめっこになったその時、電話の音。

亮平  
もしもし、え？ おう……ん、ん、(と、ひかりを気にして)車か？そうか、ま、どっちでもええけど。  
今から？……一人やけど。あかんなんか言うてへんよ。何時位になるんや？え、おい？(切れる)

ひかり  
……(目を閉じて今度は自分に)泣いたってダメ、泣いたって……。  
亮平  
……  
ひかり  
バカよねえ(と、立ち上がり行きかけて)……。あったかくなったら新しいビキニを買います。スイ  
カ割り位で気絶したりしない強い人を見つけます。さよなら

ひかり、去る。亮平は赤い食品シリーズの揃ったテーブルを見つめ、溜息をつく。  
洋介が顔を出す。顔の絆創膏が二カ所になり、手にも包帯など巻いている。

亮平  
ああ

洋介

どうも

亮平

あゆみが

洋介

知ってます。病院行ってきました。

亮平

何回も電話したんやけど

洋介

すいませんでした。

亮平

(ケガをみて) なんやようさんやられたなあ

洋介

会社もうあかんと思います。(放心したように座る)

亮平

・・・(トマトジュースを手にとり) 飲む？

洋介

豚骨やのカラオケやの強引な事やったバチがあたったんです

亮平、トマトジュースを開けてごくごく飲む。びっくりしてみつめる洋介。

亮平

罰や。

洋介

・・・お兄さんがお酒飲まなくなった理由分かりました。聞いちゃいました。すいません。

洋介、台所へ。亮平、頑張って飲んでる。

戻ってきた洋介の手には缶ビール。覚悟を決めたように開けて飲む。怪訝そうにみつめる亮平。

洋介

僕も罰です。(飲む) こほっこほっ・・・会社に辞表出してきました。

亮平

・・・

洋介  
。ウチで預かった教会の金、内緒で取ったん僕なんです。どうしても手付けを払いたいところがあって・

倍にして返せるって、どうかしてたんです。会社は借金だらけで金は返ってこおへん。怖い奴らに目つけられる……。今更逃げるみたいで格好悪いんですけど。(飲む)

それだけ痛い目にあつとうねんから、もう罰はええやろ

(飲む) 漆原先生が逃げてへんかったら僕こそどうなってたか……。信じろって人にはいうて自分は

金

盗んで……。ごほっげほっ

亮平

やめた方がええよ

洋介

あそこに立ってカズって話しかける時だけ本気やった

亮平

ほんまにカズがいるみたいに思える時あったもんな

洋介

……。 (飲み続ける) あの祭壇、空き地に持って行って燃やしたんです。あつと言う間に形がなくなつて……。なんやったんかなって。

亮平

マンション、なんかされたん

洋介

めちやくちやでした

亮平

そしたら中におった……

洋介

中には誰もいなかったんで……。僕がいった時には彼女はもう消えてました。

亮平

……

洋介

これで豚骨ラーメンともおさらばです。あの匂い、夢にまでみました。湯気の立ってる鍋の中に入れられるんです、裸にされてケツだされて

亮平 ……いろんな夢があるなあ

洋介 お兄さん、僕はあのマンションで毎日エッチなビデオを見てたんです。毎日毎日頭が腐りそうになるくらい

いいやらしいビデオを見たんです。どう思いますか？

亮平 どう思うって……

洋介 猿渡さんは旦那さんの暴力がいやで逃げてきたんです。だけど僕は猿渡さんの事はみないでエッチなビデオをみてたんです。……

亮平、黙ってジュースを飲む。

洋介 猿渡さんも僕の事なんか見てなかったんやと思います。

亮平 ……悲しいな……

洋介 病院行ってあゆみに全部話してきました

亮平 投げ飛ばされへんかった？

洋介 (傷の一つを指し) これ、あゆみに

亮平 ……

洋介 嘘ですよ。黙って天井向いて、一言も口聞いてくれませんでした。もうあかんかもしれませぬ。

亮平 強情な奴やからな

洋介 喜んでる時でも怒ったみたいな顔するんです

亮平 わかるわかる

洋介 怒ってる時も怒ってるみたいな顔で

亮平

そら当たり前やろ

洋介

・・・プロポーズしようとした時ね、あんまり怖い顔してるからこらあかんと思って。恥ずかしい話なんですけど、面と向かって言えなくて手紙を出したんです。そしたら次の日に返事がきて、「ありがとう」って、横にね、ハートの絵が書いてあったんです。ハートの。

亮平

怒ってなかったんや

洋介

そうなんですよ。赤くね色が塗ってあって

亮平

かわいいやんか

洋介

かわいいんですよ、十九ですもん

亮平

信子のお母さんは、花を返したって

洋介

ロマンチックですねえ。お兄さんは

亮平

みみずみみたいな字やから

洋介

僕なんか漢字が全然ダメで。「けっこんしてください」って全部ひらがなでしたもん

亮平

けど喜んだんやろ

洋介

ありがとうって、赤いハートで

亮平

あゆみがな

洋介

・・・その二通ねずっと大事に、仕舞ってたんですよ。もう何にも残ってないけど

亮平

あゆみかって憶えとうよ

洋介

そうですかね

玄関で物音。亮平出ていく。

亮平 (戻ってきて) なんや遠慮して

広田 (入ってきて) どうも

広田、困ったように洋介を見る。

亮平 (紹介して) 友達の広田くん。谷口さん

広田 広田です。あゆみちゃんのこと？

洋介 はい、洋介です

広田 よろしくお願いします。・・・

亮平 なんや

広田 ん・・・どうしてるかなと思って。

亮平 変わらないよ

広田 ん

亮平 座れば

三人三様に座っている。

広田 あゆみちゃんは？

亮平 ……ちよっと具合悪くて

広田 そうか、元気そうやったのに

あとの二人 . . . . .

広田 (傷だらけの洋介が気になる) . . .

洋介 あ、僕はちよつところんで

広田 はあ . . .

亮平 どないしてん

広田 ん . . . あ、豚骨ラーメン

洋介 ?

広田 やってるんですよね。僕大好きで。あの匂いがねえ、もうもうと湯気が上がってるのを見ると食欲わきます

もんねえ

二人 . . . . .

間。

亮平 弁当でも食う？先着二名やけど

洋介 僕ちよつとトイレ (と、出て行く)

広田 なんか悪かった？

亮平 . . . お前って空気読まへんよなあ

広田 ?

亮平 どないしてん

広田 探してるんだろ

亮平 ……(頷く)

広田 ……これ、余計な御世話かもしれないけど…。(と、紙を出し) 信子さんの住所分かった。

亮平 ……

広田 画廊の人に頼んで、色々調べて貰った。旧姓は久野だろ、たぶん間違いないよ。…一人で暮らしてるらしい

亮平 おそろのおそろ紙を受け取り食い入るように見つめる。  
そして、上着を取ると出て行こうと、

広田 ちよ、待てよ。いきなり行くのはよくないって

亮平 ……そうかな

広田 あっちにだって心の準備があるだろ

亮平 ……

広田 電話は？

亮平、電話の前まで行きやめる。

亮平 ……(紙を見て) ここにおるんか。そうか…

広田 ……変わってるかもな

亮平 信子は信子や

広田 電話、してみるよ。・・・俺に言われたくないか

亮平 なんて言うたらええかわからん

広田 手紙は、どうや

亮平 あかん

広田 どうして

亮平 ええから

広田 なにが

亮平 みみずみみたいな字なんや

広田 なに？

亮平 ちよっと黙っとってくれ

広田 ・・・

亮平 ・・・

広田 (がまんできなくて) みみずってなんや

亮平 あほ

溶暗。

【その夜の幻想】

亮平の声信子様、一枚だけ残っていた写真を送ります。ピンぼけした自分の顔のこっち側にいる信子の顔が俺には

見える。もし信子にも見えたら帰ってきてくれませんか？

浮かび上がるのは、夜明けの道を疾走する亮平。裸足、パジャマ、吐く息が白い。

亮平　その瞬間、身体が白い風になった。真つ暗な道を必死で走ったんや。例え世界がどこかへ吹っ飛んでも俺は一人では飛んでいかへんぞと思った。決めてたやろ、もしもの時の集合場所。篠原グランド、第三小学校、秘密の空き地にもちゃんといったで。足の裏が切れてドバツと出たけど、何にも感じなかった。どこやどこやどこや、そう叫びながら走ってん。どこまでも走ってん。土を掘り返した。柱を持ち上げた。声が嘎れてもまだ叫んだ。今も走ってる。まだ叫んでる。何にも終わってへん。……その瞬間、俺の身体は……

亮平の息づかいと共に、鐘の音高まって……暗転。

### 【6場】

数日後の朝。すっかり春めいている。身支度をしている洋介。

洋介　（奥に）靴下まだ？

あゆみ　（出てきて）はい、これしか乾いてなかった

洋介　なんかこれ（見比べて）長さ違わへん？

あゆみ　はいたらわからへんやろ。ほら、遅くなるよ

洋介、仕方なくはく。あゆみは何個も洗濯ばさみのついた物干しをいじくっている。

あゆみ

ああ、やっぱりここ取れてる。買ったばかりなのに

洋介

また、買ったらええやろ

あゆみ

簡単に言わんといて。・・・お母さんは、お父さんに靴下まではかせてあげてたけど、信じられへんわ

洋介

え？

あゆみ

一回、赤い服と一緒に洗ったら、お父さんのシャツもパンツも全部きれいなピンクになった事あってね、

あんまりお母さんの事叱るから、私腹たって、その方が流行やのになって言うたってん。私がわざとしたげたのになって

洋介

へえ。

あゆみ

そしたらお父さん、黙って大事にずっとそのパンツ履いてた。社員旅行にも履いていったもん

洋介

あのキャラクターでピンクのブリーフか

あゆみ

そう、ちよっと可哀相やったかなあ

洋介

(格好を決めて) どう？

あゆみ

まあまあかな

洋介

決まるかどうかわからんよ

あゆみ

ま、頑張ってる。今頃高ちゃんも頑張ってるんやから。

洋介

俺も久しぶりに受験生の気分や

あゆみ

そんな気楽な事言うてる場合とちゃうでしょ

洋介 分かってる。お兄さんには？

あゆみ 言うよ、ちゃんと

洋介 . . . 滑り台やつと使えるなあ

あゆみ ん

洋介 例の方は？

あゆみ (首を振る) 気になってるねんけど . . .

洋介 引っ越してたとはなあ。

あゆみ やっぱりすぐ訪ねていった方がよかつたんやわ

洋介 今更そんな言うてもな。けど、返っては来て へんのやろ、手紙

あゆみ ん

洋介 転居届け出してたら届いてる可能性もあるしな

あゆみ まあね

亮平登場。例のスーツ。

亮平 俺の白い靴下知らん？

あゆみ、 又奥へ。

亮平 洋介くん、いよいよか

洋介 今日は簡単な面接だけです。決まるかどうか。  
亮平 がんばってな

洋介 この年になっていやなんですけど  
亮平 ちよっと暗いんちゃうか

洋介 ？

亮平 そのネクタイ

洋介 は、はあ、まあ面接なんで。

あゆみ、戻ってきて、

あゆみ ちよっと湿ってるけど

亮平 (左右見比べて) なんかこれ、長さ違わへん？

洋介 あ

あゆみ ……はいたらわからへんから

亮平、しかたなくはく。

洋介 そしたら、

亮平 うん

洋介 (あゆみに) 身体、気を付けて

あゆみ

いってらっしゃい

洋介、出ていく。亮平は鏡に向かってネクタイを……

亮平

高次は？

あゆみ

行ったよ。こっちまでドキドキする

亮平

どうにもしてやれんからな

あゆみ

きのう送って来てたおまもり、ほら、差しだし人書いてへんかったやつ

亮平

ああ

あゆみ

一応渡しといた

亮平

彼女からやろ、きつと

あゆみ

彼女？

亮平

時々来とった子

あゆみ

ああ、振られたんかな、結局

亮平

あの子、ほら向かいの漬け物屋の、お前覚えてへんかったんか？ヤンキーみたいな孫がおったやろ

あゆみ

ああ、地震で亡くなった

亮平

おばあさんと孫は助かったんや

あゆみ

何言うてんの、おばあさん以外は亡くなりはったやん。

亮平

漬け物屋やで、白菜のおいしい

あゆみ

そうや。おじいさんも、お孫さんもあかんかってんよ。あの女の子私と三つくらいしか違わへんかったか

らよう憶えてるわ。同じ年の恋人が泊まりにきてて、その子は助かってん。彼女の方は生き埋めになって  
しても柱の横から手だけ見えててんて。彼氏が声かけたらその手動かしたって。その男の子なあずうつと  
何時間もそこに座って、話してあげてたん。そこまで火がきても全然逃げんと、一生懸命学校の事やら本  
の事やらずうつと。けど結局いつのまにかその手が動かへんようになって・・・

亮平

よう知つとうな

あゆみ

近所の人に聞いたんよ。可哀相でみてられへんかった言うてた

亮平

それで

あゆみ

あそこのおばあちゃんすっかりボケてしまいはって、どっかの親戚んちに引き取られたんちゃうかったか  
な

亮平

大阪

あゆみ

そうやったかな、いややなんでこんな話になったん。

亮平

・・・

亮平は、手を止めてちよつとぼんやりしている。

あゆみ

どないしたん？

亮平

盆でもないのになあ

風の音。亮平、又、鏡に向かう。

あゆみ

・・・まだ早いんとちゃう？

亮平

場所知らんから

あゆみ

広田さんに来週洋介と行くって言うといて

亮平

うん

あゆみ

個展なんてかっこいいねえ

亮平

あれが画家とはとても思えんけどなあ

あゆみ

ベレー被ってパイプくわえてるんだけど画家とちゃうでしょ

亮平

まあな

あゆみ

(兄を鏡越しに見て) 個展のオープニングやろ・・・

亮平

！ (ネクタイを押さえ) 言うな、何も言わんとつてくれ

あゆみ

言うてへんやん

亮平

今日はこのネクタイでええんや

あゆみ

はーい

のどかな風の音。

あゆみ

お兄ちゃん、あのね、私病気とちゃうかってん

亮平

ん

あゆみ

もうなんにも心配いりませんってお医者さんが

亮平

だからってまた食い過ぎるなよ

あゆみ そういう話じゃなくて・・・カズの弟か妹出来る事になった

亮平 ……

あゆみ ずうっと迷ってて誰にも言えなくて。けど、もう決めたから。

亮平 そうか

あゆみ うん

亮平 おめでどう

あゆみ ありがとう

亮平 おふくろに聞かせてやりたかったな

あゆみ ここで生んでいい？

亮平 当たり前やろ

あゆみ ん、滑り台無事でよかった。・・・

玄関で物音。

声 すいませーん。ごめんください

あゆみ はい (と、出ていく)

亮平 (ヒヤシンスをみている) 今日があったかそうやな

その時、なにかが近づいてくるような音。大きな大きな波、それとも何十頭もの、何百頭もの馬が押し寄せてくるような地



亮平

.....

あゆみ

(戻ってきて) 何や開いたん (と、花を見る) .....お姉さんから？

慌てて名前を見ようと空箱を手にとると、その底にはまだ何か入っている。振ってみる。がさがさという音。抽選箱のようにおそろおそろ手を入れるあゆみ。つまみ出したのは一枚の写真。

あゆみ

これ、お姉さん？

亮平、箱に手をつっこむと一束の写真を取り出す。どんどん見ていく。それをあゆみに手渡すと、今度は箱を持ち上げて思い切って逆さにする。中からパラパラと、写真が降ってくる。部屋中に飛び散る写真。

あゆみ

全部お姉さんの写真やんか.....

亮平

全部二人の写真や.....ここにも、ここにも、俺がおるねん.....

あゆみ

お兄ちゃん.....

亮平

信子、帰ってくるよ

遠くから微かに鐘の音が聞こえてくる。亮平、すつくと立ち上がり右手を大きく上げるとゆっくり力強く振り始める。彼の動きに合わせて、鳴り響く鐘の音。次第に高まり、やがて彼が疲れ切ったように脱力した時、その音は突然ぴたりと止まる。

あゆみ

お兄ちゃん

亮平

シッ

玄関の開く音。振り返る二人のシルエット。  
庭の滑り台には溢れるような光が降り注ぎ・・・。  
暗転。

劇中の鼻歌

「花言葉の唄」

作詞 西条八十

作曲 池田不二男

おわり